

基安安発0929第2号
基安労発0929第2号
令和3年9月29日

別記団体の長 殿

厚生労働省労働基準局安全衛生部
安 全 課 長
労働衛生課長
(契印省略)

食品スーパー及び総合スーパーにおける労働災害防止に向けた
より一層の取組について（協力依頼）
～転倒等による労働災害が多発しています～

平素より、労働安全衛生行政の推進につきましては、格段の御理解・御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、小売業のうち、特に食品スーパー及び総合スーパーで労働災害が多く発生している状況にあることから、本日付で厚生労働副大臣から、小売業（食品スーパー・総合スーパー）における労働災害防止に向けたより一層の取組の推進に関して協力の要請（以下「副大臣協力要請」という。）を行ったところです。副大臣協力要請を踏まえた具体的な実施事項については、下記のとおりとなりますので、貴団体におかれましては、傘下の会員などの関係者に対し、下記を参照、活用いただき、情報が行き渡るよう広く周知いただくとともに、労働災害防止に向けたより一層の取組の推進を図っていただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

記

1 現下の労働災害発生状況と防止対策の必要性の周知について（副大臣協力要請事項1）

「食品スーパー」及び「総合スーパー」における主な特徴は以下のとおりです。別紙を活用した会員、関係者への周知により、労働災害発生状況及びその防止対策の必要性が共有されますようお願いします。

- ① 「転倒」による災害が全体の34.5%と最も多く、被災者の約9割が女性であること。
- ② 転倒災害の7割が骨折を伴い、約6割が休業見込期間1月以上と重傷化の傾向があること。
- ③ 年齢・性別では、50代以上の女性の転倒災害が多いこと。
- ④ 転倒災害は、店舗内での「つまづき」、バックヤードでの「滑り」によるものが多いこと。

2 重点的に取り組んでいただきたい事項（副大臣協力要請事項2）

(1) 企業単位での取組の促進

事業場（店舗）の労働災害発生状況を把握・原因の分析を行い、発生状況に応じた労働災害防止の重点事項を定め、取り組まれるようお願いいたします。多店舗展開する企業においては、各店舗の状況を把握し、本社主導による企業全体での取組をお願いいたします。

(2) 転倒災害の防止

最も多発している転倒災害は、濡れた床面、段差、手すりのない階段などの設備面、走るなどの不安全な行動、加齢による運動機能の低下など、複合的な原因で発生します。このため、従業員の不注意ということで片付けることなく、設備面の改善、不注意な行動の防止、日頃からの運動を含めた職場での健康増進などの取組を、以下の4点を重点に従業員の方々の参画のもとで取り組んでいただくようお願いいたします。

- ① 4S活動（整理、整頓、清掃、清潔）
- ② 危険の見える化（転倒の危険がある場所を分かりやすく表示する）
- ③ すべりにくい靴（耐滑性の高い防滑靴）の着用
- ④ 転倒予防体操の実施

また、このたび厚生労働省と消費者庁は、日本転倒予防学会と協力して、日本転倒予防学会が制定する10月10日の「転倒予防の日」を契機に、国民に対する転倒予防の呼びかけを行うこととしました。「転倒予防の日」を契機に、職場での転倒予防の取組が広く実施されますようお願いいたします。

(3) 腰痛災害の予防について

食品スーパーや総合スーパーでは、転倒災害に加えて腰痛災害も多く発生しており、両者は相互に関連することがありますので、(5)のウも活用いただき、腰痛予防にも取り組んでいただきますようお願いいたします。

(4) 職場における健康づくりや労働者に対する教育・研修等の場の活用

転倒災害や腰痛災害は労働者の作業行動や身体機能等の影響によるところも大きく、事業場における設備的対策のみでは十分に災害防止効果を発揮できないことがあります。このため、職場における健康づくりに関する取組や、労働者に対する教育や研修、業務ミーティング等の場も活用し、災害に遭いにくい健康な体づくりや災害に遭わないような作業行動を労働者一人ひとりが心がけるような気運醸成に取り組んでいただくようお願いいたします。

(5) 小売業の労働災害防止の取組において活用いただけるツール等

各企業において、重点項目に応じ以下のツールを活用願います。

ア 全般的な取組について

- ・「職場の危険の見える化」を行うための実践的なマニュアルで、ダウンロードが可能なイラストで構成される「職場の危険の見える化（小売業、飲食業、社会福祉施設）実践マニュアル」

【掲載場所】 <https://www.mhlw.go.jp/content/11300000/mieruka.pdf>

- ・多店舗展開する小売業において、企業本社・本部が各店舗を含めて企業全体としてリスクアセスメントを、効果的・実践的に行う手法としての「多店舗展開企業（小売業）でのリスクアセスメントマニュアル」

【掲載場所】 https://www.mhlw.go.jp/content/11300000/RA_tatenpo_kouri.pdf

- ・高年齢労働者の特性を考慮した対策「エイジフレンドリーガイドライン」

【掲載場所】 <https://www.mhlw.go.jp/content/000691521.pdf>

- ・ 高年齢労働者を雇用する事業者が、労働災害防止のために設備改善などを行った場合にその費用の一部を補助する補助金（エイジフレンドリー補助金）

【掲載場所】 https://www.mhlw.go.jp/stf/newpage_09940.html

- ・ 労働者の身体機能と労働災害発生との関連性に着目し、運動習慣の定着や健康づくりを推進するための「安全で安心な店舗・施設づくり推進運動の広報及び運動習慣定着支援等事業」（厚生労働省委託事業）※令和3年10月から参加企業の募集を開始予定

【掲載場所】 <https://anzeninfo.mhlw.go.jp/information/sanjisangyo.html>

- ・ 個人向運動プログラムや栄養指導プログラム等を実施するための「事業場における労働者の健康保持増進計画助成金」

【掲載場所】 <https://www.johas.go.jp/sangyouhoken/tabid/1945/Default.aspx>

イ 転倒災害防止の取組について

- ・ 転倒防止に関するセミナー、教材、ツール集など（STOP！転倒災害プロジェクト）

【掲載場所】 <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000111055.html>

- ・ 転倒予防体操動画（厚労省が研究者と協力して開発したもの）

【掲載場所】 <https://www.youtube.com/watch?v=9jCi6oXS8IY>

- ・ 厚生労働省・日本安全靴工業会・日本プロテクティブスニーカー協会作成リーフレット「転倒予防のために適切な靴を選びましょう！」

【掲載場所】 <https://www.mhlw.go.jp/content/000836595.pdf>

- ・ 消費者庁チラシ「毎日が＃転倒予防の日～できることから転倒予防の取り組みを行いましょう～」（令和3年10月6日）

【掲載場所】

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_055/

- ・ 消費者庁注意喚起「10月10日は「転倒予防の日」、高齢者の転倒事故に注意しましょう！～転倒事故の約半数は住み慣れた自宅で発生しています～」（令和2年10月8日）

【掲載場所】

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_040/assets/consumer_safety_cms204_201008_01.pdf

- ・ 政府広報「たった一度の転倒で寝たきりになることも。転倒事故の起こりやすい箇所は？」（令和3年6月21日）

【掲載場所】 <https://www.gov-online.go.jp/useful/article/202106/2.html>

ウ 腰痛災害防止の取組について

- ・ 職場における腰痛予防対策を進めるために策定された「職場における腰痛予防対策指針」

【掲載場所】 <https://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/youtsuushishin.html>

3 創意工夫による効果的な労働災害防止活動に係る好事例の収集と展開について（副大臣協力要請事項3）

食品スーパーや総合スーパーで実施される労働災害防止活動の好事例について、貴団体での好事例の収集と横展開を図っていただくようお願いします。好事例の展開に当たっては、職場の安全を応援する情報発信サイトである「職場のあんぜんサイト」（URL：

<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/>) を積極的に活用ください。同サイトでは、労働災害統計、各種教材・ツールなどを取り上げるとともに、事業者の皆様に参画いただいて実施する以下の「見える化」等の取組を行っています。

ア 労働災害を無くして、「働く人・企業・家族」が元気になる職場を創るプロジェクトである「安全プロジェクト」（募集期間：随時参加募集中）

（URL：<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzenproject/index.html>）

イ 事業場等で実施されている労働災害防止活動の「見える化」の事例を募集する『「見える」安全活動コンクール』（今年度の募集は終了。令和4年は8月から募集予定。）

（URL：<https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzenproject/concour/index.html>）

（別紙）

- ・小売業の労働災害発生状況
- ・厚生労働省・日本転倒予防学会作成リーフレット（注意喚起用ミニポスター）「店頭での転倒に要注意」
- ・リーフレット「小売業事業主の皆さまへ 安全・安心な施設づくりに取り組みましょう」

(別記)

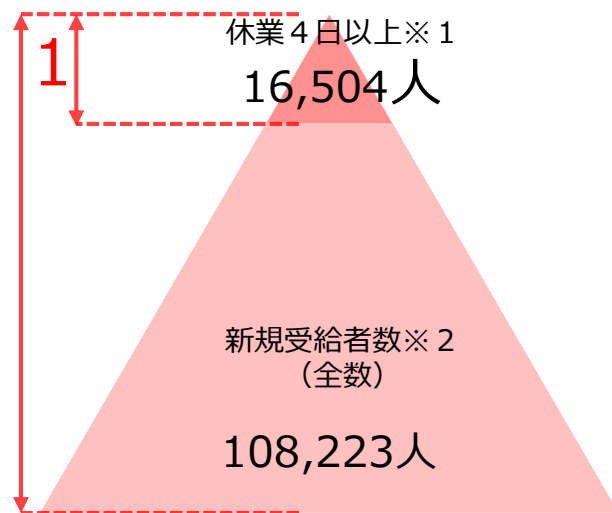
- ・ 中央労働災害防止協会
- ・ 一般社団法人日本労働安全衛生コンサルタント会
- ・ 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構
- ・ オール日本スーパーマーケット協会
- ・ 一般社団法人全国スーパーマーケット協会
- ・ 一般社団法人日本スーパーマーケット協会
- ・ 日本チェーンストア協会
- ・ 日本小売業協会
- ・ 日本労働組合総連合会
- ・ U A ゼンセン

小売業の労働災害発生状況

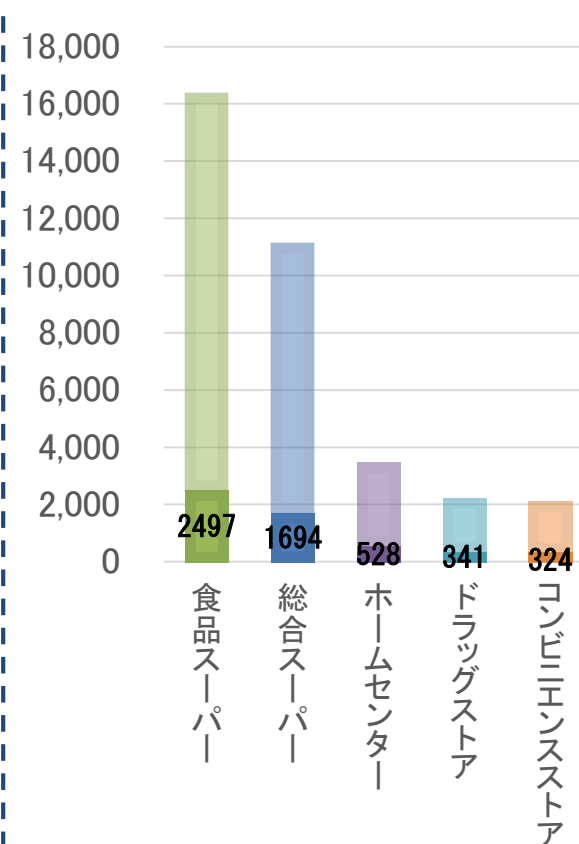
- 小売業の労働災害（休業4日以上）のうち業態別では、食品スーパー、総合スーパー、ホームセンター、ドラッグストア、コンビニエンスストアの順に多い。
- 上記全ての業態で転倒が最多で、動作の反動・無理な動作が次に多い。

卸売業・小売業の労働災害発生状況

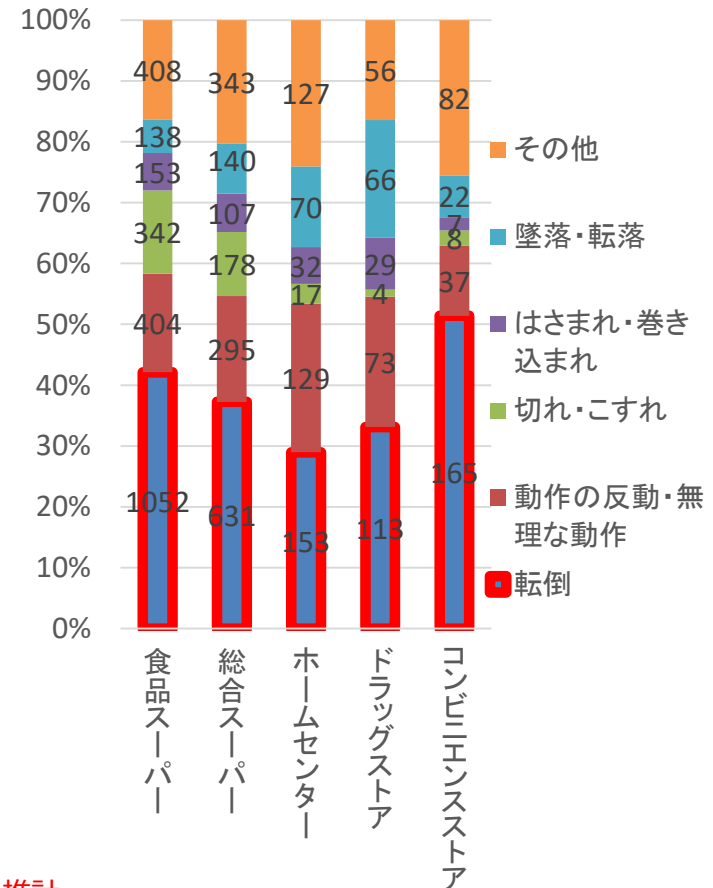
全体の労働災害は、
休業4日以上の労働災害の約7倍



小売業の業態別死傷者数（上位5業態）



小売業の業態別・事故の型別死傷者数



※ 赤字は左図の割合より全数を算出した推計

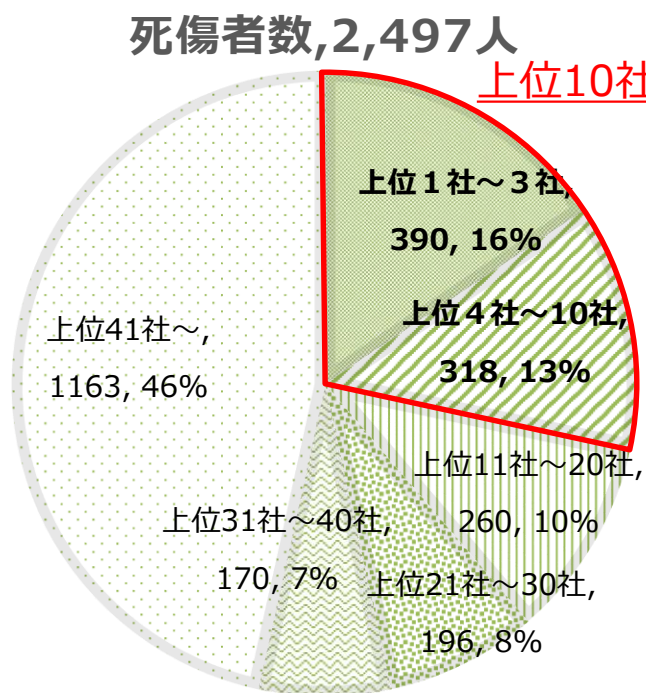
出典：平成29年 労働者死傷病報告を元に中央労働災害防止協会が集計したものより抜粋

※1 平成29年労働者死傷病報告より
※2 平成29年度労働者災害補償保険事業年報より
(新規受給者数は通勤災害を含む年度単位の集計)

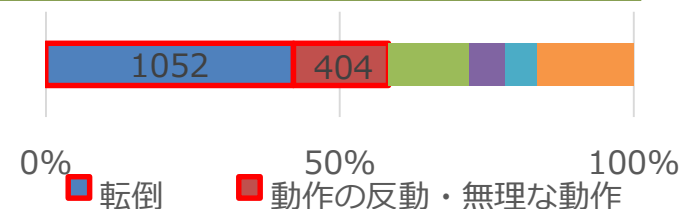
食品スーパーの労働災害発生状況

- 転倒の約9割が女性で、そのうちの約6割が休業1月以上。高齡となるほど多く、50代以上では骨折が約7割。

企業単位別

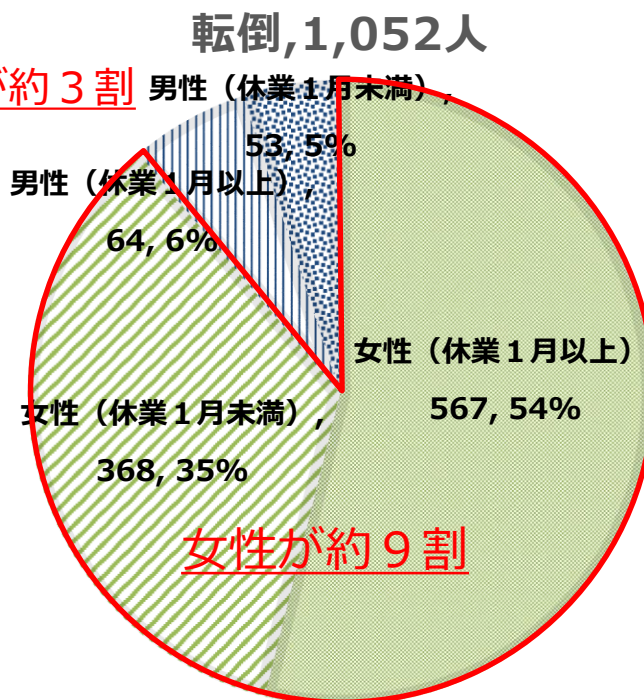


事故の型別



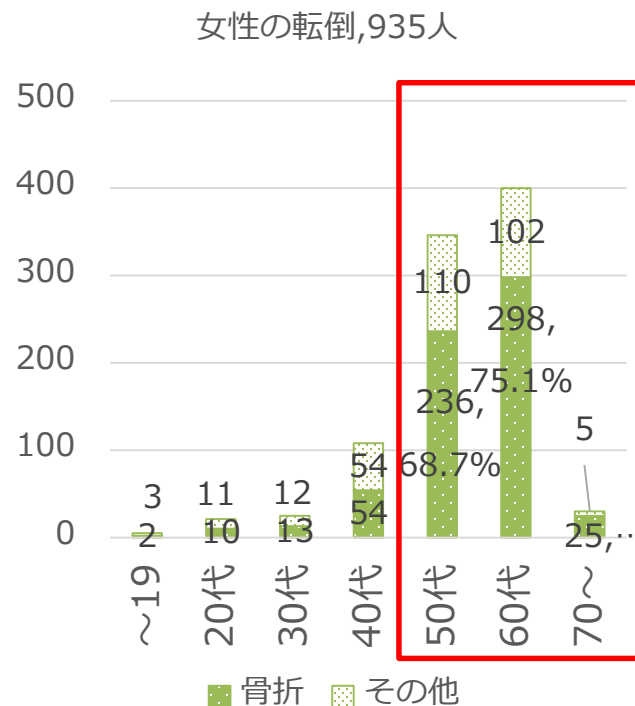
転倒が42%、動作の反動・無理な動作が16%

転倒災害 性別・休業期間別



女性の転倒の約6割が休業1月以上

転倒災害 傷病性質別・年代別



高齡となるほど多い
50代では骨折が約7割

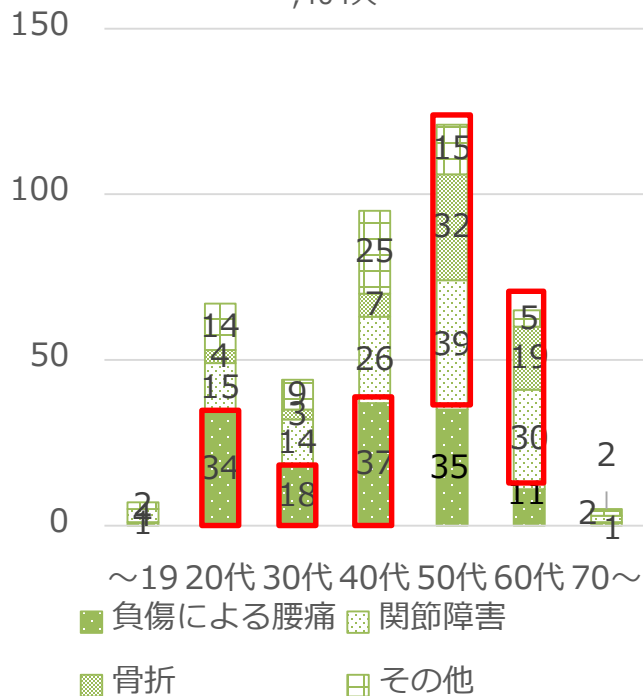
食品スーパーの労働災害発生状況

- 動作の反動・無理な動作による労働災害は、40代まででは腰痛が最多。50代以降は関節障害、骨折が多くなる。
- 転倒災害を場所別で推計すると36%が店舗内、24%がバックヤードで発生。店舗内での転倒災害のうち、つまづきによるものが48%。バックヤードでの転倒災害のうち、滑りによるものが46%。

動作の反動・無理な動作 年代別・傷病性質別

動作の反動・無理な動作

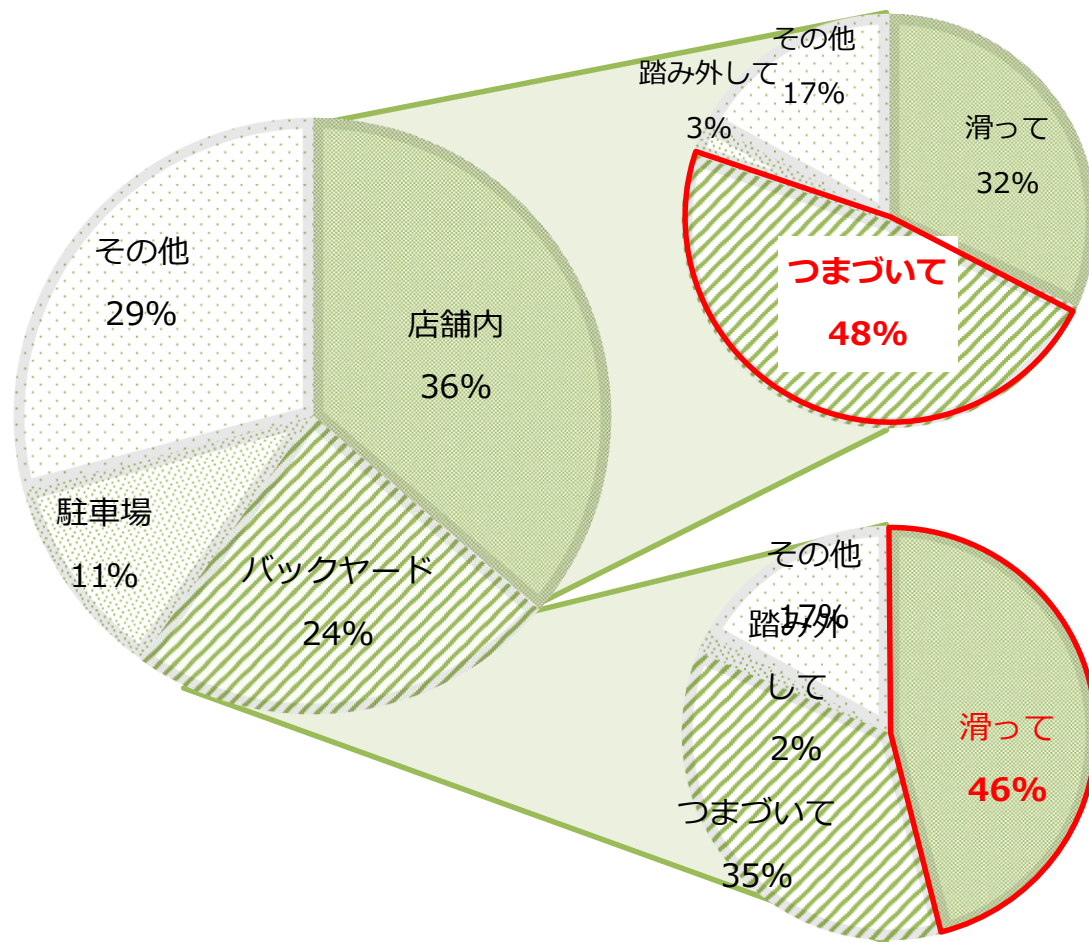
,404人



50代以降で関節障害、骨折が多い

転倒災害 発生場所別・要因別

以下のグラフは、労働者死傷病報告で平成29年に食品スーパーで発生した転倒による労働災害1,052件から502件を抽出して集計したもの

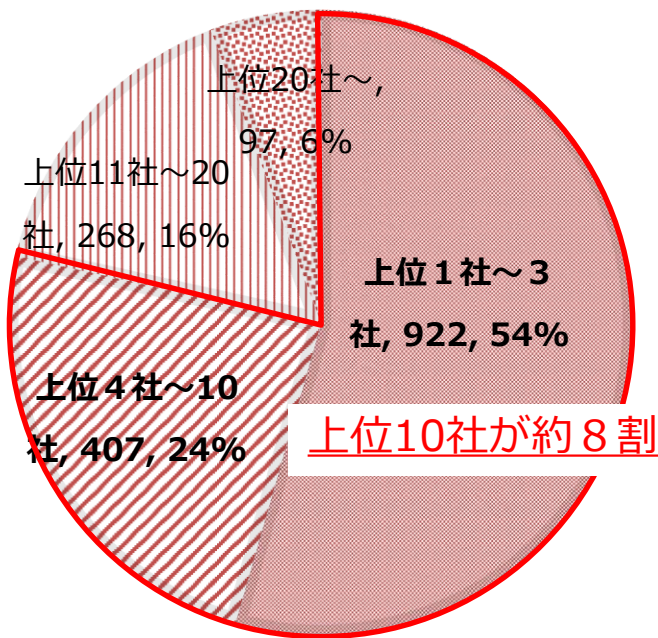


総合スーパーの労働災害発生状況

- 転倒の約 9 割が女性で、そのうちの約 5 割が休業 1 月以上。高齢となるほど多く、50代以上では骨折が約 7 割。

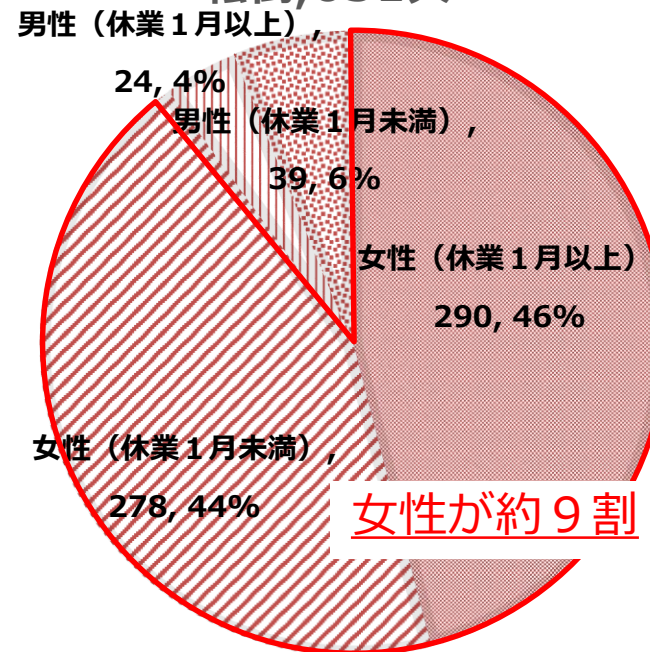
企業単位別

死傷者数,1,694人



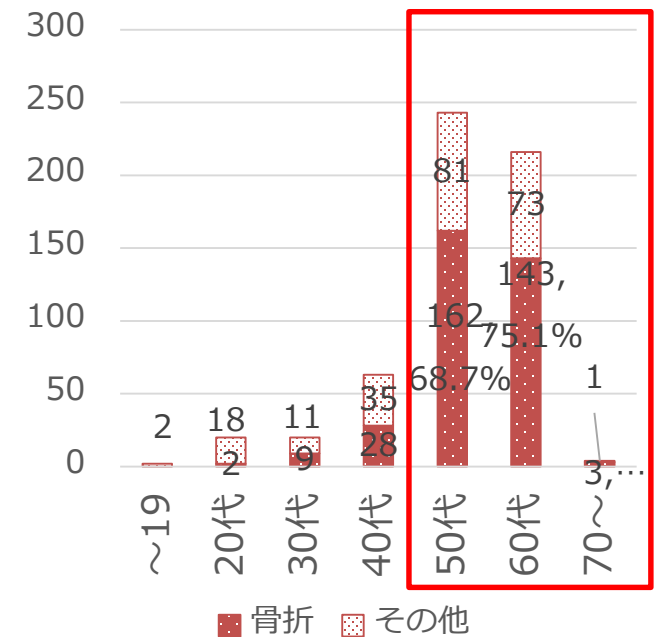
転倒災害 性別・休業期間別

転倒,631人

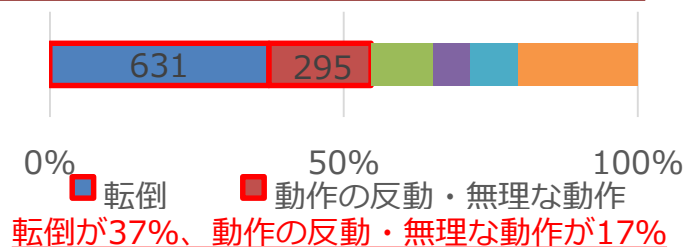


転倒災害 傷病性質別・年代別

女性の転倒,568人



事故の型別



女性の転倒の約 5 割が休業 1 月以上

高齢となるほど多い
50代では骨折が約 7 割

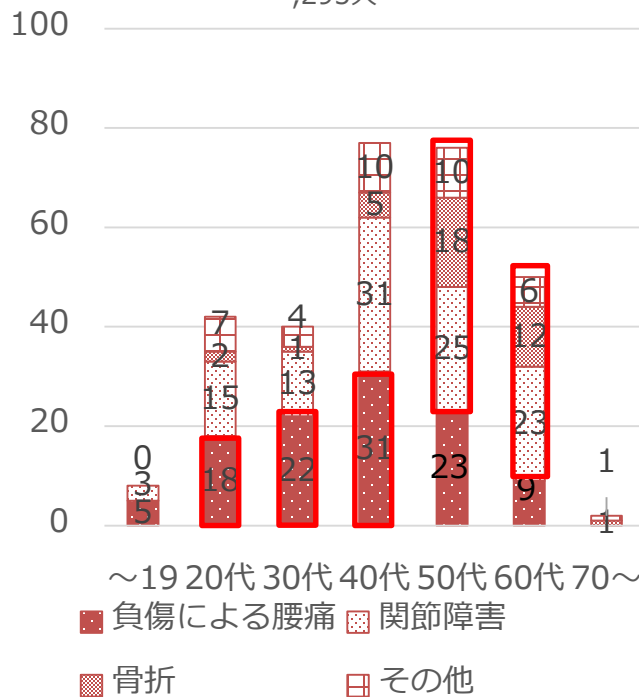
総合スーパーの労働災害発生状況

- 動作の反動・無理な動作による労働災害は、40代まででは腰痛が最多。50代以降は関節障害、骨折が多くなる。
- 転倒災害を場所別で推計すると46%が店舗内、28%がバックヤードで発生。店舗内での転倒災害のうち、つまづきによるものが56%。バックヤードでの転倒災害のうち、滑りによるものが40%。

動作の反動・無理な動作 年代別・傷病性質別

動作の反動・無理な動作

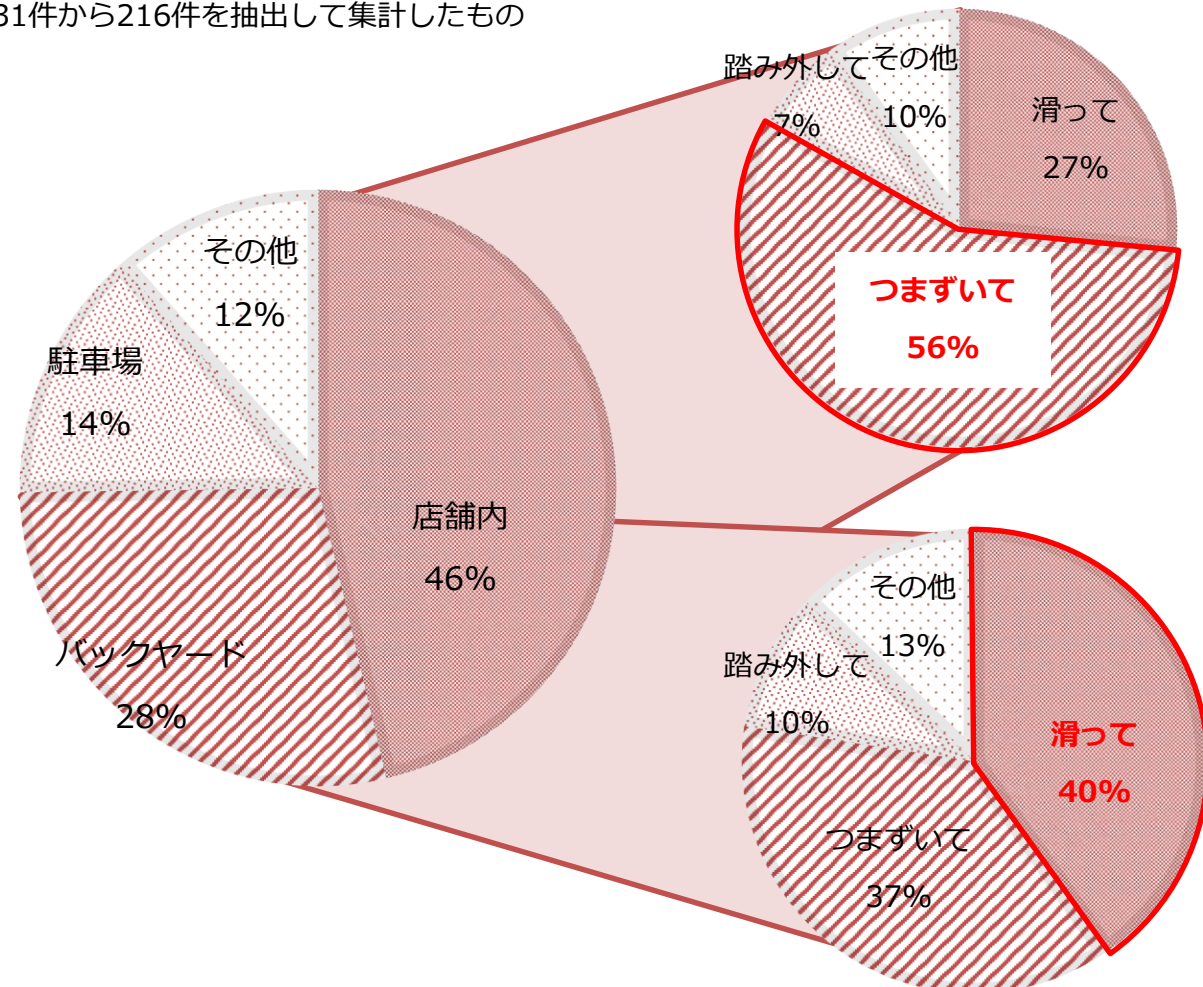
,295人



50代以降で関節障害、骨折が多い

転倒災害 発生場所別・要因別

以下のグラフは、労働者死傷病報告で平成29年に総合スーパーで発生した転倒による労働災害631件から216件を抽出して集計したもの

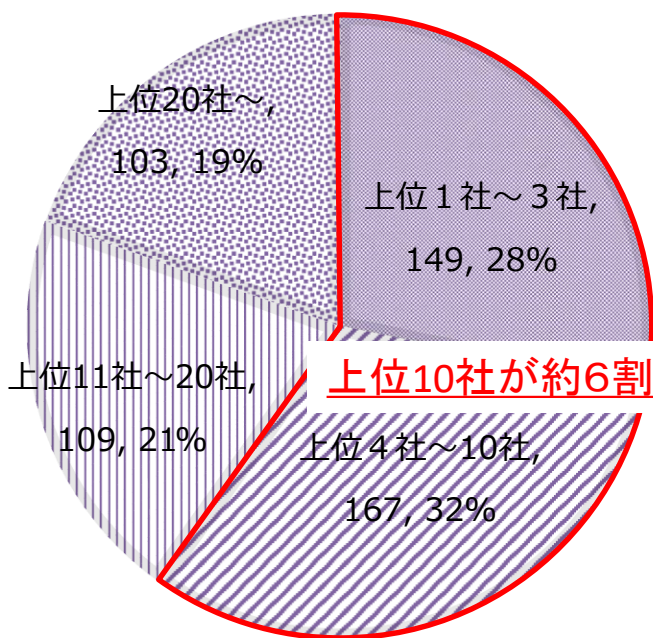


ホームセンターの労働災害発生状況

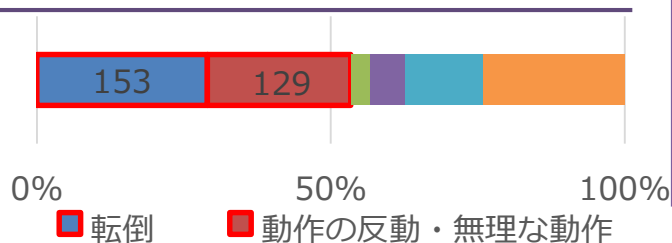
- 転倒災害を場所別で推計すると店舗内で発生したものが54%。店舗内の転倒災害のうち、つまづきによるものが50%。
- 動作の反動・無理な動作は商品運搬作業中に発生したものが62%。

企業単位別

死傷者数,528人



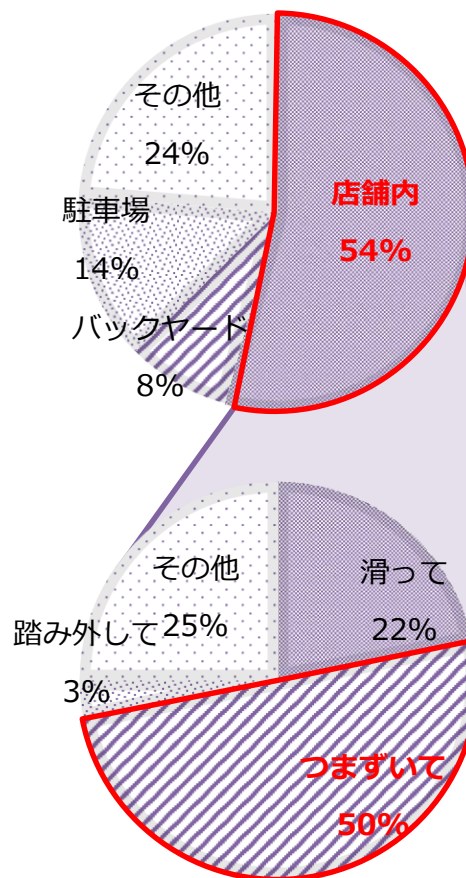
事故の型別



転倒が29%、動作の反動・無理な動作が24%

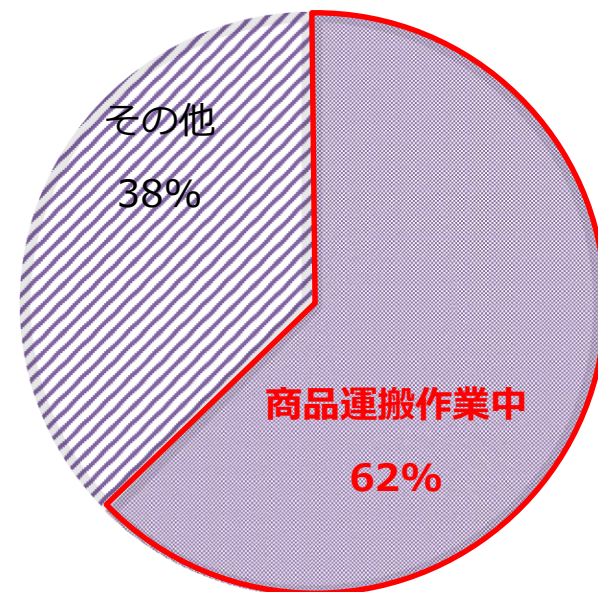
転倒災害 発生場所別・要因別

以下のグラフは、労働者死傷病報告で平成29年にホームセンターで発生した転倒による労働災害153件から59件を抽出して集計したもの



動作の反動・無理な動作 作業別

以下のグラフは、労働者死傷病報告で平成29年にホームセンターで発生した動作の反動・無理な動作による労働災害129件から48件を抽出して集計したもの

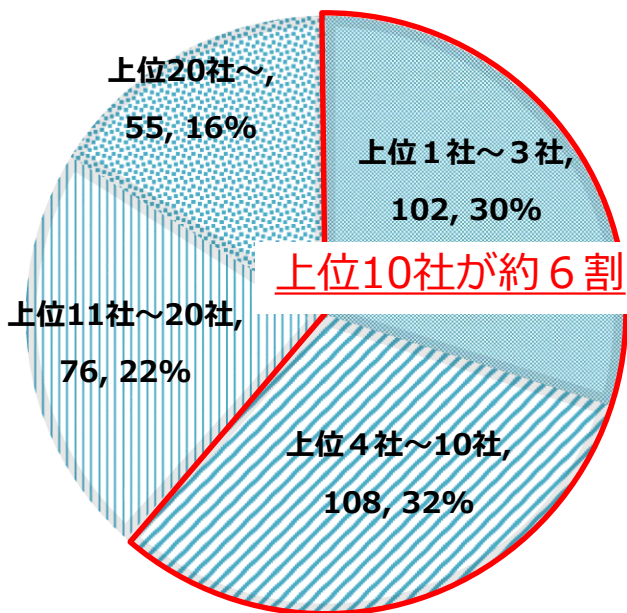


ドラッグストアの労働災害発生状況

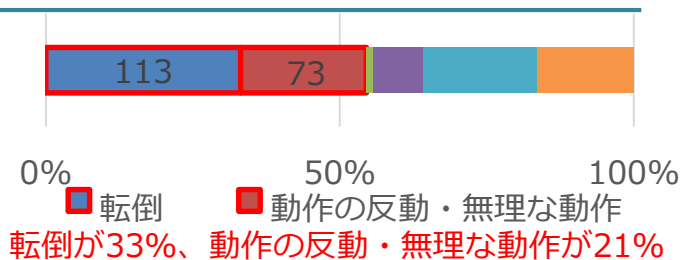
- 転倒災害を場所別で推計すると店舗内で発生したものが40%。店舗内の転倒災害のうち、つまづきによるものが56%。
- 墜落・転落災害のうち脚立からのものが80%。

企業単位別

死傷者数,341人

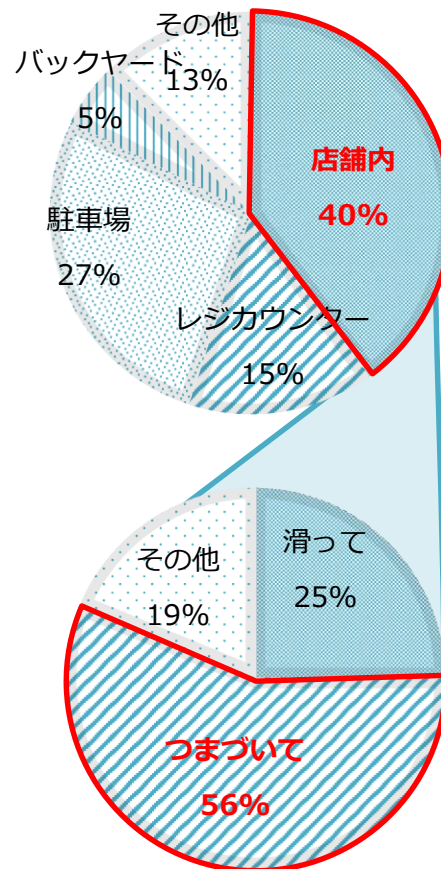


事故の型別



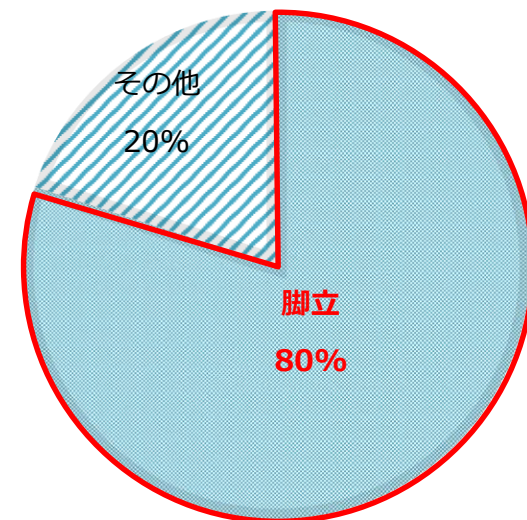
転倒災害 発生場所別・要因別

以下のグラフは、労働者死傷病報告で平成29年にドラッグストアで発生した転倒による労働災害113件から40件を抽出して集計したもの



墜落・転落災害 起因物別

以下のグラフは、労働者死傷病報告で平成29年にドラッグストアで発生した墜落・転落による労働災害29件から10件を抽出して集計したもの

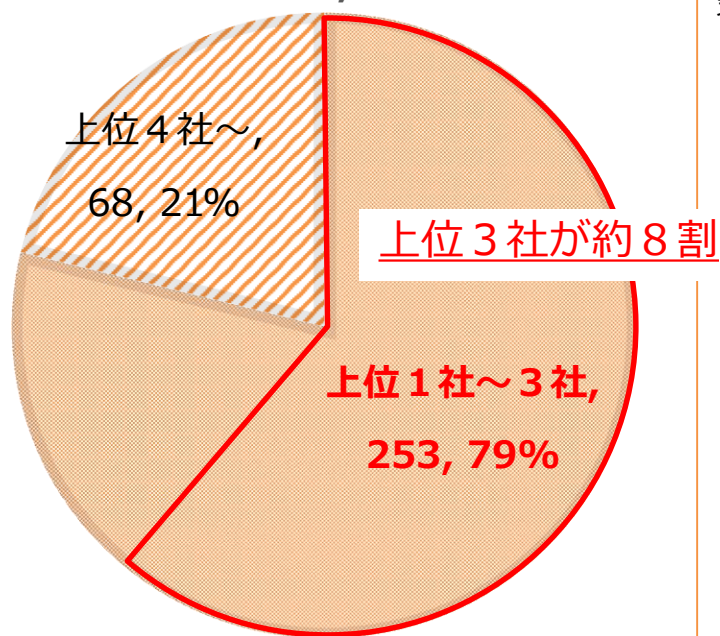


コンビニエンスストアの労働災害発生状況

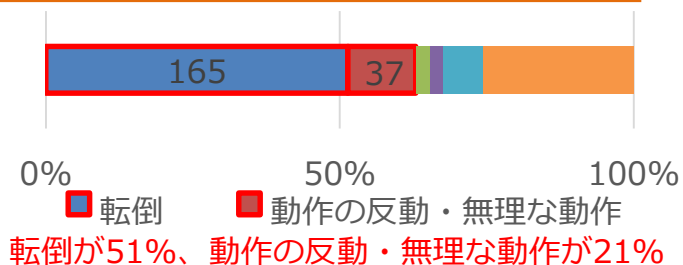
- 転倒災害を場所別で推計すると**店舗内で発生したものが40%、レジカウンターで発生したものが21%。**
- 店舗内での転倒災害のうち、**つまづきによるものが39%。**レジカウンターでの転倒災害のうち、**つまづきによるものが83%。**

企業単位別

死傷者数,321人

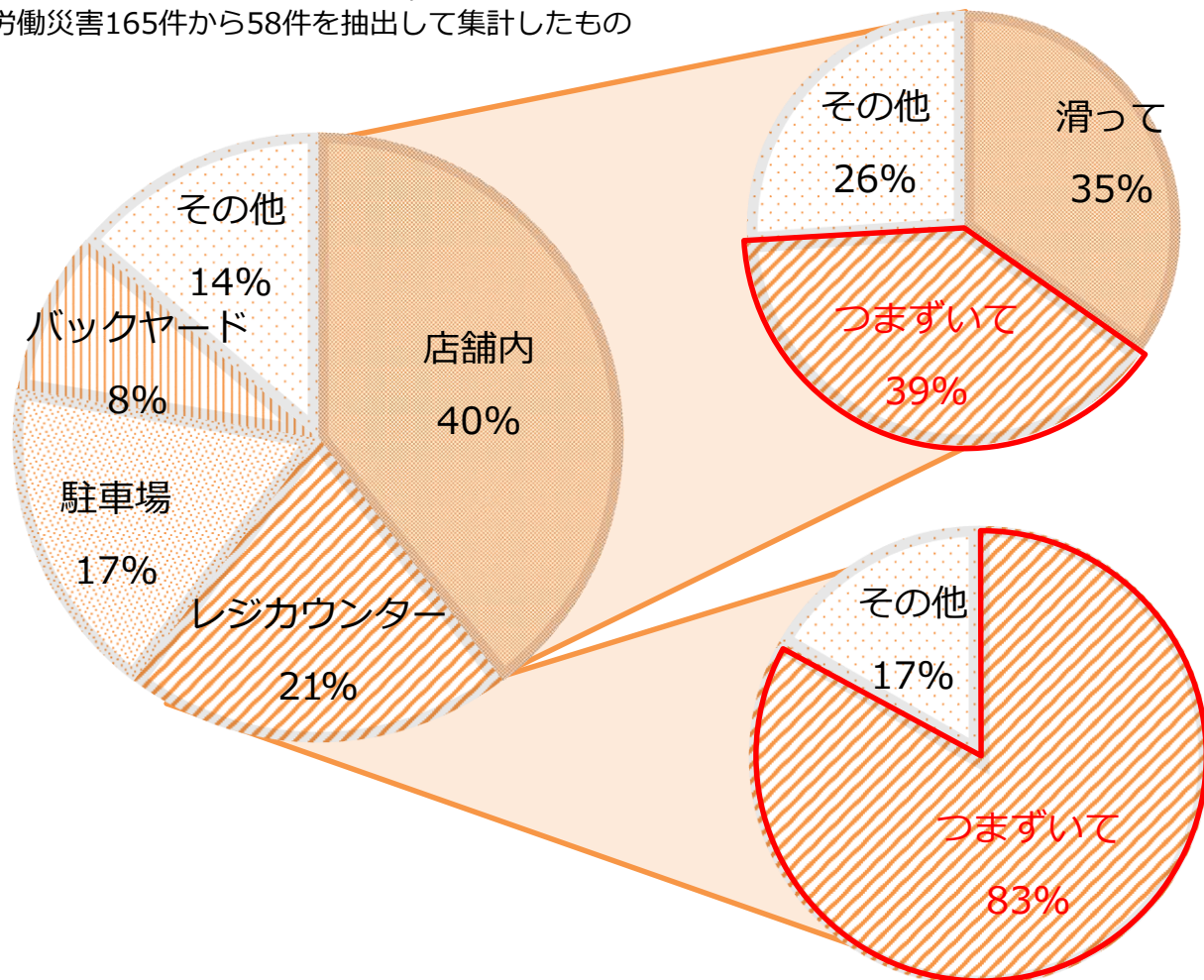


事故の型別



転倒災害 発生場所別・要因別

以下のグラフは、労働者死傷病報告で平成29年にコンビニエンスストアで発生した転倒による労働災害165件から58件を抽出して集計したもの



滑り

つまづき

踏み外し

店頭での転倒に要注意

でんとう
10月10日は
転倒予防の日



滑り止め
つけておきたい
口と足

数字で見る
食品スーパーでの転倒

労働災害の
うち転倒

約 **4** 割

休業1か月以上

約 **6** 割

女性

約 **9** 割

50代以上

約 **8** 割

出典：平成29年 労働者死傷病報告より

2015年・転倒予防川柳大賞作品（東京都 佐川 晶子）



厚生労働省



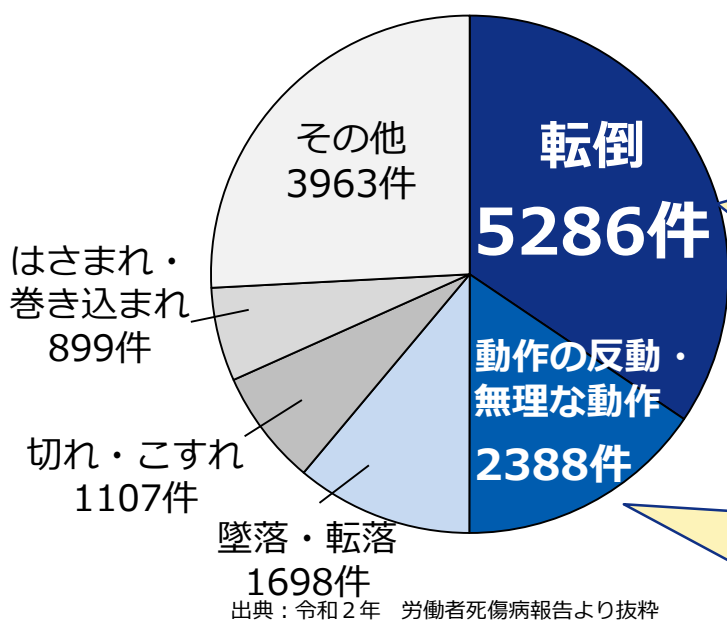
日本転倒予防学会

店長から従業員の皆さまへのお願い

小売業事業主の皆さまへ

人材確保のためにも 安全・安心な施設づくりに取り組みましょう

小売業における労働災害（年間総15341件）



転倒

全体の

34%



動作の反動
無理な動作

全体の

16%



転倒リスクがある場所



出典：政府広報オンライン



出典：政府広報オンライン

例えば食品スーパーの転倒災害状況

出典：平成29年 労働者死傷病報告より

労働災害のうち
転倒

約4割

休業
1か月以上

約6割

女性

約9割

50代以上

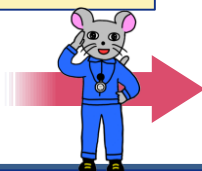
約8割

安全・安心な施設づくりのために、裏面の対策に取り組みましょう



厚生労働省

ひと、くらし、みらいのために
Ministry of Health, Labour and Welfare



利用者・従業員の 安全・安心な施設づくりのため 下記の対策に取り組みましょう

作業場所の
整理整頓



作業場所の
清掃



毎日の運動



危険箇所の
見える化



手すりの
設置



滑りにくい
靴の着用



持ち物の
制限



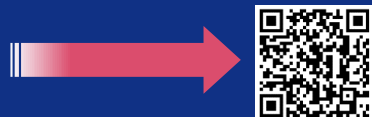
重い物は
2人で保持



台車の利用



安全で安心な店舗・施設づくりに取り組みましょう！
詳しくはこちらをチェック！



小売従業員が安心して働くために

整理・整頓 清掃・清潔

見た目にきれいなだけでなく、つまづいたり転んだりすることも減りました



厚生労働省のホームページで4S（整理・整頓・清掃・清潔）の方法を公開しています。



危険の見える化

危険の原因が誰から見てもわかるので、事故やケガが減りました



厚生労働省ホームページで「職場の危険の見える化（小売業）実践マニュアル」をご覧ください。



設備の改善

滑らず蒸れない靴のおかげで快適！



うっかり手を切る心配がありません！

段ボール専用カッターを使用する。



職場環境の改善等のために、エイジフレンドリー補助金をご活用ください。

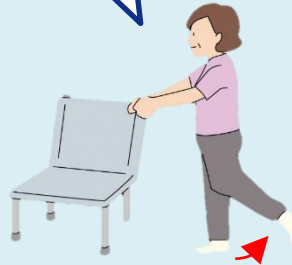


転倒・腰痛 予防体操

足を前に



足を後ろに



YouTubeで、転倒・腰痛の予防に役立つ「いきいき健康体操」をご覧ください。

